



大 銀 杏

喜多市立慶徳小学校 学校だより
令和2年2月14日(金) 第18号
発行責任者 校長 石田 秀喜

【教育目標】心豊かで、主体性のある児童の育成 ～育てよう夢 伸ばそう個性 伝統を受け継ぐ慶徳の子～

Sodateru (ソダテル) Sをとったら・・・

ある実験で、成績のほぼ同じ小学校6年生を、「ほめる組」と「叱る組」の2つの組に分け、算数の学習結果を調べたそうです。

「ほめる組」では、テストの回数が増えるにつれて正答率がアップしました。一方の「叱ってばかりの組」は、2回目はかなり成績がアップしましたが、3回目以降はダウンしていったそうです。

大人でも、ほめられて嬉しくない人はいません。あまり見え透いたオーバーなほめ言葉はむしろ逆効果な場合がありますが、ハッパをかけすぎると、子どもは自ら頑張ろうとする気持ちをなくすことがあります。特に学年が進むにつれて、外からのハッパは、反発を招くこともあります。

「育てる」をローマ字で書くと、「Sodateru」となりますが、この「Sodateru」から「S」をとったら「Odateru」(オダテル)に・・・。

「おだてる」という言葉は、あまりいい感じには使われませんが、ほめられることをきっかけに、子ども自身が、「やれそうだ」「できそうだ」というように、その気になってさらにがんばるようになればいいのではないかと考えます。

もちろんほめてばかり、おだててばかりではだめですが・・・。



情報モラル授業

～和田典久さんを特別非常勤講師にお招きして～



今日は、5・6年を対象に情報モラル学習会を実施しました。東京工業大学大学院卒業後、みずほ情報総研や浦安市CIO補佐等の勤務経験をお持ちの慶徳地区在住 和田典久さんを講師にお招きし、毎年この時期に実施しています。今回は、「SNSやネットの『問題』とその解決法をみんなで考えよう。」というテーマで実施しました。先生の一方的な話でなく、子どもたち自身に、問題点とその解決策について考えさせるという授業でした。まず一人一人が自分の考えを付箋紙に書き、各班ごとに模造紙に貼りながら、話し合いをしていく「KJ法」という手法を取り入れました。「ネット依存になってしまう(1班)」「いじめにつながる

(2班)」「インターネット依存が問題(3班)」「人間関係に対する考え方が変わってしまう(4班)」などの問題が出され、その解決策を子どもたちなりに真剣に考え、話し合いをしました。こちらが思っている以上に、子どもたちは何が問題かが分かっている、その解決策も本質をついているものも多く見受けられました。本校で目指す「自己マネジメント力をもった児童の育成」につながる学習会となりました。

32名が風邪ひき!! (2/12)

今週になって風邪などで体調を崩している児童が増え、昨日は、全校生で32名の児童が風邪ひきでした。手洗い・うがい・マスク・換気・栄養・睡眠が大切で、特に手洗いが重要だと言われています。週末も含め、正しく・こまめな手洗いを心がけさせたいものです。

